



令和7年度 果樹情報 第12号

(令和7年9月4日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (8月後半、果樹研究所)

平均気温は、第4半旬が27.3℃で平年より2.5℃高く、第5半旬が27.9℃で平年より3.1℃高く、第6半旬が26.8℃で平年より2.4℃高く経過しました。

この期間の降水量は6.5mmで平年比7.7%と平年よりかなり少なくなりました。日照時間は121.8時間で平年比121%と平年より多くなりました。

2 土壌水分 (8月31日現在、果樹研究所)

8月31日時点の土壌水分(pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)は、深さ20cmで3.0、深さ60cmで2.9となっており、乾燥状態です(図1)。

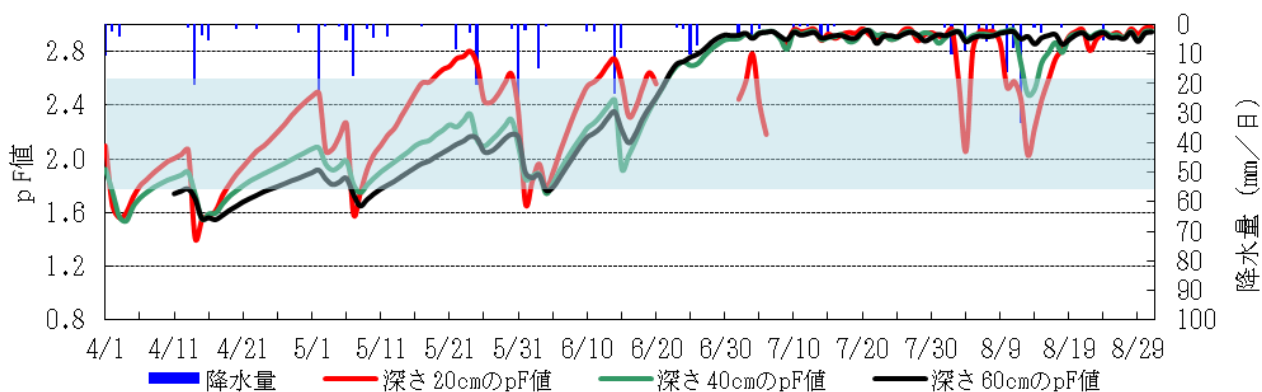


図1 土壌pF値の推移(果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)

図中の網掛け部は、適湿の範囲(pF1.8~2.6)

3 発育状況 (9月1日現在、果樹研究所)

(1) もも

ア 収穫状況

「川中島白桃」の収穫盛期は8月27日で平年より2日遅く、昨年より14日遅くなりました。果実の大きさは364gで平年並、糖度は16.5° Brixで平年よりかなり高くなりました。

「ゆうぞら」の収穫盛期は8月22日で平年より11日早く、昨年より5日遅くなりました。果実の大きさは377gで平年よりやや大きく、糖度は14.4° Brixで平年より高くなりました(表1)。

表1 ももの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	6/30	7/ 6	6/28	7/ 4	7/ 9	7/ 2	7/ 7	7/13	7/ 4	316	264	303	13.0	11.8	12.7
日川白鳳	7/ 3	7/13	7/ 1	7/ 6	7/16	7/ 3	7/10	7/20	7/ 4	251	236	211	13.3	11.0	12.8
暁星	7/15	7/21	7/ 8	7/18	7/25	7/10	7/24	7/29	7/11	198	221	211	14.2	13.0	14.0
ふくあかり	7/18	7/21	7/12	7/24	7/27	7/15	7/28	7/31	7/16	302	266	306	15.8	13.0	12.8
あかつき	7/25	7/31	7/19	7/29	8/ 4	7/22	8/ 4	8/ 9	7/29	341	269	343	14.3	13.0	13.2
まどか	8/ 4	8/ 9	8/ 1	8/ 7	8/13	8/ 3	8/11	8/18	8/ 5	323	350	376	16.9	13.7	14.7
川中島白桃	8/21	8/22	8/ 9	8/27	8/25	8/13	9/ 1	8/29	8/16	364	354	361	16.5	13.0	14.3
ゆうぞら	8/19	8/29	8/16	8/22	9/ 2	8/17	8/28	9/ 7	8/19	377	339	358	14.4	13.0	13.9

注) 平年値は、1991~2020年(「はつひめ」「ふくあかり」は2009~2020年)の平均

(2) なし

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「豊水」は縦径が78.5mm（平年比104%）で、横径が93.4mm（平年比107%）と平年よりやや大きくなりました。満開後日数で比較すると、「豊水」は平年よりやや大きい状況です。

イ 収穫状況

「幸水」の収穫開始は8月18日で平年より6日早く、収穫盛期は8月23日で平年より6日早くなりました。果実の大きさは353gで平年よりやや小さく、糖度は13.1° Brixで平年並でした（表2）。

ウ 成熟状況

満開後130日における「豊水」の成熟調査の結果は、果実硬度が7.2ポンドと平年より高く、糖度が12.4° Brixと平年並、果皮中クロロフィル含量が6.2 $\mu\text{g}/\text{cm}^2$ と平年より少なくなっています（表3、図2、3、4）。果皮中クロロフィル含量に対する果実硬度では、平年値を上回っています（図5）。

表2 なしの収穫状況

品種		収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			果実重(g)			糖度(° Brix)		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
幸	水	8/18	8/24	8/13	8/23	8/29	8/18	8/28	9/4	8/22	353	382	403	13.1	12.5	13.0
豊	水	未	9/12	9/2	未	9/17	9/6	未	9/24	9/9	未	423	601	未	12.9	13.5
二十世紀	未	9/17	9/10	未	9/21	9/11	未	9/25	9/13	未	402	473	未	11.1	11.1	
あきづき	未	9/25	9/11	未	9/28	9/16	未	10/3	9/20	未	462	482	未	13.0	13.3	
ラ・フランス	未	10/4	9/30	未	10/4	9/30	未	10/7	9/30	未	294	390	未	12.9	14.2	

注) 平年値は、1991～2020年の平均。未は未確定。

表3 なし「豊水」の成熟経過

生育日数	硬度(lbs.)			地色			糖度(° Brix)		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
130	7.2	6.1	6.0	2.0	2.4	1.9	12.4	11.8	11.9

生育日数	果皮中クロロフィル含量($\mu\text{g}/\text{cm}^2$)			リンゴ酸含量(mg/100ml)			蜜入り		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
130	6.2	7.0	7.3	0.12	0.15	0.12	1.6	1.6	1.5

注) 平年値は、1991～2020年の平均。本年は、満開後131日に調査。

- 蜜入り指数1：果実の切断面全体が白っぽく水浸状がほとんど気にならないもの
 2：果皮直下の部分がわずかに水浸状を示しているように見えるもの
 3：水浸状を示している部分が広く、果皮直下では水浸状部の境界が比較的はっきりしているもの
 4：果実切断面の大部分が比較的はっきりした水浸状を示しているもの

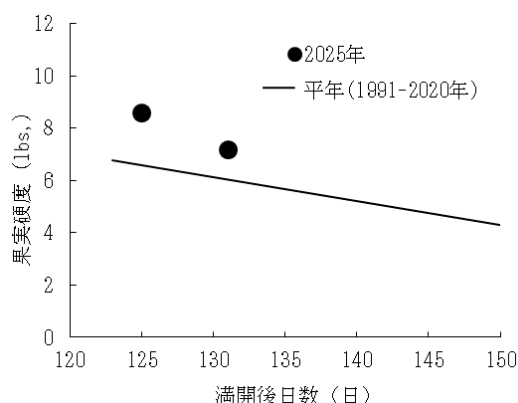


図2 「豊水」の果実硬度の推移

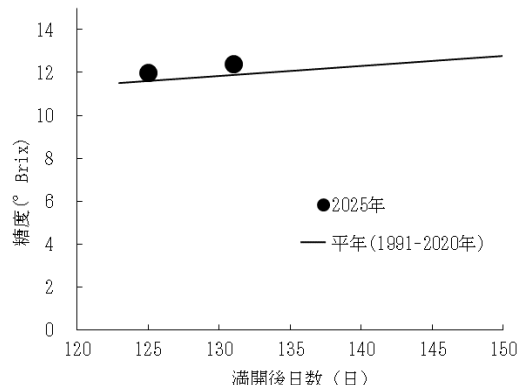


図3 「豊水」の糖度の推移

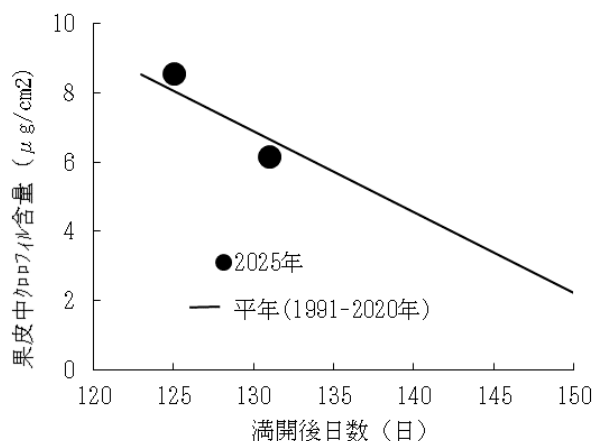


図4 「豊水」の果皮中クロロフィル含量の推移

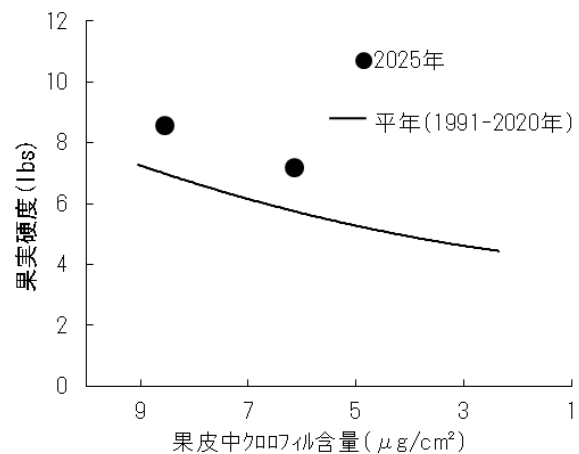


図5 「豊水」の果皮中クロロフィル含量と硬度の推移

(3) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が 70.2mm (平年比 97%)、横径が 81.8mm (平年比 99%) で平年並。「ふじ」は縦径が 68.4mm (平年比 95%)、横径が 75.2mm (平年比 95%) と平年並の状況です。

満開後日数で比較すると、両品種とも平年並より小さい状況です。

イ 収穫状況

「つがる」の収穫開始日は8月22日で平年より5日早く、収穫盛期は8月25日で平年より6日早くなりました。満開日からの成熟日数は122日で平年より3日短くなりました。

果実の大きさは265gと平年よりやや小さく、糖度は13.6° Brixと平年より高く、硬度は13.8ポンドと平年より高くなりました(表4)。

ウ 「ふじ」の裂果発生状況

満開後127日ころ(8月29日)における「ふじ」/マルバ台果実の外部裂果率は0%で、過去3年間と比較して少なく、内部裂果発生率は10.0%と過去3年間と比較して少ない傾向でした(表5)。

表4 りんご「つがる」の収穫期と果実品質

収穫開始日			収穫盛期			収穫終期			成熟日数		
本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
8/22	8/27	8/23	8/25	8/31	8/28	8/29	9/ 6	9/ 2	122	125	127
果実重(g)			糖度(° Brix)			リンゴ酸(g/100ml)			硬度(lbs.)		
本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
265	285	297	13.6	12.4	13.8	0.26	0.24	0.25	13.8	11.8	10.5

注) 平年値は、1981～2020年の平均
成熟日数は、満開日から収穫盛までの日数

表5 りんご「ふじ」の裂果発生状況(満開後127日ころ)

調査樹	樹齢	外部裂果率(%)				内部裂果発生率(%)			
		2025	2024	2023	2022	2025	2024	2023	2022
ふじ/マルバ台	23	0	0	3.3	3.3	10.0	6.7	26.7	30.0

(4) ぶどう

ア 収穫状況

「巨峰(無核栽培)」の収穫始めは8月28日で平年より9日早く、「高尾」の収穫始めは8月

28 日で平年より 12 日早くなりました（表 6）。

果実品質は、「巨峰（無核栽培）」及び「高尾」では果皮色が平年より低く、糖度は平年より高い状況です（表 7）。

イ 「シャインマスカット」の成熟状況

満開後 76 日（8 月 26 日）における「シャインマスカット」の成熟状況は、糖度が 15.4° Brix、酒石酸含量が 0.50g/100ml、糖酸比が 30.7 となっています（表 8）。

表 6 ぶどうの収穫状況

品種	収穫開始日			収穫盛期			収穫終期		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
巨峰（無核栽培）	8/28	9/ 6	8/22	未	9/ 9	8/29	未	9/15	9/ 2
高 尾	8/28	9/ 9	8/29	未	9/14	9/ 4	未	9/17	9/ 4

注) 平年値は「巨峰（無核栽培）」は 1998～2020 年、「高尾」は 1991～2020 年の平均

表 7 ぶどうの果実品質

栽培方法	果皮色 (カラーチャート値)			糖度 (° Brix)			酒石酸 (g/100ml)			糖酸比		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
巨峰（無核栽培）	<u>9.0</u>	9.5	8.2	<u>17.5</u>	16.5	17.7	<u>0.49</u>	0.52	0.48	<u>35.6</u>	33.1	36.5
高 尾	<u>9.8</u>	10.0	9.6	<u>19.7</u>	19.1	20.1	<u>0.49</u>	0.48	0.45	<u>40.4</u>	40.9	44.8

注) 平年値は「巨峰（無核栽培）」は 1998～2020 年、「高尾」は 1991～2020 年の平均

下線部は収穫始の果実品質

表 8 ぶどう「シャインマスカット」の成熟経過

品種	調査日	満開後 日 数	果房重 (g)	1 粒重 (g)	糖度 (° Brix)	酒石酸 (g/100ml)	糖酸比
シャイン マスカット	8/26	76	455.5	10.5	15.4	0.50	30.7

4 栽培上の留意点

果樹研究所におけるこの期間の降水量は 6.5mm と平年よりもかなり少なく、9 月 1 日現在で土壌が乾燥状態にあることから、各園地の状態に応じて適切な対策を実施しましょう。

また、8 月 28 日発表の 1 か月予報では、今後の平均気温は高い確率 80% と予想されています。

高温・乾燥状態が続く場合には、速やかにかん水を実施しましょう。

(1) 共通

ア かん水

5 月から夏期にかけて果樹園からの 1 日当たりの蒸発散量は、晴天日で 6～7 mm、曇天日で 2～3 mm、平均で 4 mm 程度のため、1 回のかん水は 25～30 mm 程度（10 a 当たり 25～30 t）を目安とし、5～7 日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1 回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

イ 草刈り・マルチ

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう（地表面からの蒸発散量は、草生園において刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます）。

また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

ウ 高温期間中の収穫作業

果実温が高いと日持ち性が低下しますので、収穫は果実温が低い朝のうちにに行いましょう。また、収穫後は直射光の当たらない涼しい場所に保管し、速やかに出荷調整を行いましょう。

(2) もも

ア 秋肥の施用

収穫後、9 月のできるだけ早い時期に秋肥を施用し、樹勢の回復と貯蔵養分の蓄積に努めましよう。秋肥は尿素を中心に速効性肥料を使用し、窒素成分で 7 kg/10a 程度（「あかつき」：中肥

沃度地帯の場合)を施用しましょう。

また、樹勢が旺盛で、新梢の二次伸長が著しい樹には、施用を控えましょう。

表9 ももの施肥基準

地 帯 区 分	品 種	目標収量 (kg/10a)	施肥量 (kg/10a)					
			N				P ₂ O ₅	K ₂ O
			秋肥	冬肥	春肥	追肥	冬肥	
肥沃度 中	日川白鳳・暁星	2,400	5	5	2	—	10	12
	あかつき	2,600	7	5～7	2	—	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	6～8	2	—	10	12
肥沃度 高	日川白鳳・暁星	2,400	5	5	—	—	10	12
	あかつき	2,600	7	5	—	—	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	6	—	—	10	12
流 亡 程度大	日川白鳳・暁星	2,400	5	—	4	2	10	12
	あかつき	2,600	7	—	4	2	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	—	4	2	10	12
腐植質 火山灰土	日川白鳳・暁星	2,400	7	5	—	—	10	12
	あかつき	2,600	7	5	—	—	10	12
	川中島白桃・ゆうぞら	3,000	8	6	—	—	10	12

注) 土壌表面は部分草生、秋肥は9月、冬肥は11～12月、春肥は2～3月、追肥は6月に実施

イ 秋季せん定

現在、新梢の二次伸長が見られています。若木や強勢樹で新梢の二次伸長が見られる場合には、樹勢に応じたせん定を行いましょう。

樹勢が強く徒長枝の発生が多い強勢樹では、9月中旬頃（徒長枝が太る前）を目途に収穫が終了した品種から秋季せん定を実施し、花芽の充実と樹勢の安定化、秋期防除における薬液透過の改善を図りましょう。

適勢樹では、主枝や亜主枝の生育を妨げる徒長枝を整理し、樹勢の乱れを防ぎましょう。

弱勢樹では、秋季せん定を実施しないか最小限とし、葉芽の多い中果枝や長果枝を多く配置することで、樹勢の回復を図りましょう。また、若木では適勢樹と同様の方法で行いましょう。

特に、幼木から若木では冬季せん定が強せん定になると寒凍害を引き起こしやすいため、夏季の新梢管理で残した主幹部の強勢な枝は秋季せん定時に整理し、冬季に大きな切り口を作らないように注意しましょう。

また、モモせん孔細菌病の罹病葉が多く見られる場合には、樹勢を乱さない範囲で枝をせん除し、菌密度の低減を図ることも効果的です。その際には、秋期防除実施前に秋季せん定を行い、薬液の到達を妨げる枝は除去するなど、防除効果を高めるよう工夫しましょう。

(3) なし

ア 「豊水」収穫の留意点

「豊水」では果そう葉の多い果実、側枝基部の果実は成熟が遅れ、着果位置では樹冠の外周部から成熟が進む傾向にあります。そのため、収穫は枝先の太玉果から始め、次第に主幹に近いところへ移るようにしましょう。主幹に近い部位で日当たりの悪い果実は、地色に青みが残る割には熟度が進んでいることがあるため、採り遅れのないように注意しましょう。

「豊水」の品種特性として、果実の成熟速度は遅いものの、同一樹内の果実の成熟差は小さいため、1～2日おきに数回に分けて収穫を進めましょう。

イ 施肥

「幸水」の収穫終了後、樹勢を見ながら9月中を目途に礼肥として尿素を中心に速効性の窒素肥料を窒素成分で4～5kg/10a施用しましょう。その他の品種（「豊水」「二十世紀」等）でも収穫が半分以上過ぎれば果実品質への影響は小さいと考えられるため、収穫後できる限り早く礼肥を施用しましょう。

ウ 落果防止剤の散布

「二十世紀」等落果防止剤処理が必要な品種は、薬剤の使用時期と他の中晩生品種への飛散防

止等に十分注意して散布しましょう。

(4) りんご

ア 中生種の収穫前管理と収穫

摘葉や玉回し等の着色管理は、各品種の生育状況に合わせて遅れないように実施しましょう。
摘葉は、気温の高い日が続く場合は日焼け果の発生が懸念されるため、始めは果実に直接触れている葉を中心に軽く行い、その後は気温の状況に応じて程度を強めて実施しましょう。

落果防止剤は、収穫開始予定日などの農薬使用基準に十分注意して使用しましょう。

イ 「ふじ」の栽培管理

反射シートの敷設や摘葉等の収穫前管理は遅れないように実施しましょう。

「ふじ」の摘葉を9月下旬頃から実施する場合は、1回目は果実と接触している葉を中心に数枚程度を摘葉し、その後は10月中旬に玉回しと合わせて行いましょう。

(5) ぶどう

ア 収穫における留意点

(ア)「シャインマスカット」の収穫適期の把握

近年、栽培面積が増加している「シャインマスカット」は、「巨峰」等の紫黒色系の品種と異なり、果皮色による収穫期の判断が難しい傾向にあります。日当たりが良い場所は果皮が黄化しやすく、有色袋を使用している場合は緑色気味で仕上がります。収穫前に食味を確認した上で適期収穫を心がけましょう。

(イ) 収穫時の留意点

- a 雨の日やその直後の果実は糖度が低く、日持ちも悪い傾向にあります。収穫前の2～3日が晴天で、当日も晴れている日に収穫するように心がけましょう。
- b 収穫は、日持ちを向上させる目的で果実温度の低い早朝などに行いましょう。
- c 主枝の先端や日当たりが良く登熟が進んだ枝の果実は成熟が早いいため、優先して収穫しましょう。
- d 果粉を落とさないため、収穫果実は穂軸を持ち、果粒に直接触らないように注意しましょう。

5 病害虫防除上の留意点

高温が続いています。葉害発生を防止するため、薬剤散布は、高温時を避けて早朝または夕方に実施しましょう。また、急な雷雨に備えて気象情報に留意し、防除タイミングを逃さないようにしましょう。

また、近年は温暖化の影響により、害虫の発生が長期にわたっています。秋期の発生は、翌年の初期発生量に大きく影響を及ぼすことから、多発生条件下では、越冬密度を低下させるために追加防除を実施しましょう。

(1) 病害

ア リンゴ褐斑病

8月中下旬における褐斑病の発生は場割合は、一部地域で平年よりやや多くなっています（令和7年8月29日付け病害虫発生予察情報・発生予報第8号）。現在、本病の二次感染期になるため、天候に注意しながら、散布間隔があきすぎないように薬剤散布を実施しましょう。本病の発生が多い状況で、8月下旬頃にユニックス顆粒水和剤47を2,000倍で使用していない場合は、晩生品種を対象に本剤の特別散布を実施し、さらに9月上旬頃にオーソサイド水和剤80を600倍またはストライド顆粒水和剤を1,500倍で使用しましょう。ただし、ストライド顆粒水和剤は高温時に使用すると葉害が発生するおそれがあるため注意が必要です。なお、薬剤の総使用回数と収穫前日数に十分注意しましょう。

薬剤散布前には徒長枝の整理等の新梢管理を行い、薬剤の散布むらをなくしましょう。

イ モモせん孔細菌病

8月下旬の新梢葉での発生は場割合は平年よりやや少ない状況ですが（令和7年8月29日付け病害虫発生予察情報・発生予報第8号）、9月は台風の発生が多い時期にあたり、今後の天候しだいでは、新梢葉での発生が増加するおそれがあります。本病は秋期に降水量が多いと翌春に春

型枝病斑の発生が多くなる傾向にあるため、収穫が終了した園では降雨前の秋期防除を徹底し、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。

秋期防除薬剤は4-12式ボルドー液、またはI Cボルドー412を30倍で使用し、9月上旬～10月上旬に2週間間隔で3回散布しましょう。なお、9月中旬以降に使用する場合、これらの剤にかえてクレフノンを100倍で加用してコサイド3000を2,000倍で、またはクレフノンを100倍で加用してムッシュボルドーDFを500倍で使用することもできます。ただし、コサイド3000及びムッシュボルドーDFは、高温時に使用すると落葉等の薬害を生じることがあるので十分に注意しましょう。

ウ ナシ黒星病

本病の発生が多い園地では、「幸水」収穫後にトリフミン水和剤 3,000倍、またはフルーツセイバー 3,000倍を使用しましょう。薬剤耐性菌の出現を防止するため、同一系統薬剤の使用回数に十分注意しましょう。なお、発生が少ない園地では今回の防除を省略することが可能です（参考：令和4年度普及に移しうる成果（<http://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/566356.pdf>））。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

8月29日現在で、第6世代の防除適期は9月1半旬ごろと推定されます。また、第6世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合、9月4半旬ごろと予測され、第7世代幼虫の防除適期は9月4半旬と推定されます（表10）。

園地の状況を確認し、密度が高い園では越冬密度を低下させるために収穫後であっても防除を実施しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

病害虫防除所による8月の発生調査では、一部地域において本種によるモモ新梢の芯折れ被害発生ほ場割合が平年よりやや高くなっています（令和7年8月29日付け病害虫発生予察情報・発生予報第8号）。

今後の気温が平年よりも2℃高く推移した場合、第5世代幼虫の防除適期は、9月1半旬ごろと推定されます（表10）。

近年、本種の第5世代によるナシの中・晩生品種の被害が散見されることから、「幸水」の果実被害が目立つ園地では、中・晩生品種を対象に防除を実施しましょう。また、被害拡大を防ぐため、シンクイムシ類の被害果実は、水づけ等により適切に処分しましょう。

ウ カイガラムシ類

今後の気温が平年よりも2℃高く推移した場合、ナシマルカイガラムシ第3世代のふ化開始は9月2半旬ごろと予測され、ふ化盛期は9月4半旬ごろと推定されます（表10）。

カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意し、発生状況に応じて防除を行いましょう。越冬虫の誘殺を目的としたバンド処理は、9月中旬頃までに行いましょう。

エ カメムシ類

本年は、防除所のフェロモントラップ調査における誘殺数は、平年より多い傾向にあります（令和7年8月29日付け病害虫発生予察情報・発生予報第8号）。飛来状況をよく観察し、多数の飛来がみられる場合には速やかに防除を行いましょう。

防除にあたっては、果樹情報特別号「果樹カメムシ類の防除対策」（7月14日発行）を参考に、地域一体となって取り組みましょう。

オ ハダニ類

各樹種でハダニ類の発生ほ場割合は平年よりも高い傾向にあり、葉やけや落葉の症状が確認されています（令和7年8月29日付け病害虫発生予察情報・発生予報第8号）。

高温期は増殖が速いので、ハダニ類の発生状況をよく確認し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

表 10 果樹研究所における防除時期の推定（令和 7 年 8 月 29 日現在）

モモハモグリガ				
今後の気温予測	第 5 世代 誘殺盛期	第 6 世代 防除適期	第 6 世代 誘殺盛期	第 7 世代 防除適期
2℃高い	8 月 28 日	9 月 1 日	9 月 16 日	9 月 20 日
平年並	8 月 28 日	9 月 2 日	9 月 20 日	9 月 25 日
2℃低い	8 月 28 日	9 月 2 日	9 月 23 日	9 月 30 日
起算日：モモハモグリガ 第 4 世代誘殺盛期 8 月 8 日（予測値）（演算方法は三角法）				
ナシヒメシンクイ ナシマルカイガラムシ				
今後の気温予測	第 4 世代 誘殺盛期	第 5 世代 防除適期	第 3 世代 ふ化開始	第 3 世代 ふ化盛期
2℃高い	8 月 29 日	9 月 4 日	9 月 8 日	9 月 20 日
平年並	8 月 29 日	9 月 6 日	9 月 10 日	9 月 26 日
2℃低い	8 月 29 日	9 月 6 日	9 月 11 日	10 月 4 日
起算日：ナシヒメシンクイ 第 3 世代誘殺盛期 8 月 5 日（予測値） ナシマルカイガラムシ 3 月 1 日 （演算方法は三角法）				

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

福島県農薬危害防止運動を実施中

- 農薬使用基準の遵守 ■農薬飛散防止対策の徹底 ■住宅地等における農薬適正使用の推進
実施期間：6 月 10 日から 9 月 10 日まで。農薬による事故等の未然防止に努めましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344
（以下の URL より他の農業技術情報等をご覧ください。）
URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>